



令和七年度 トピックス展
式年神幸祭記念
香取神宮展

ごあいさつ

千葉県香取市にある香取神宮は、全国の香取神社の総本社です。また、延喜式に登録された式内社として、そしてかつて全国に三社しかなかった「神宮」と呼ばれる神社として、長い歴史をつないできた県内有数の神社です。

香取神宮では、十二年に一度の午年うまどしに行われる「式年神幸祭しきねんじんこうさい」という特別な祭礼があります。午年を迎えた令和八年、四月十五日・十六日の二日間にわたり、この祭礼が行われます。

そこで、当館では、式年神幸祭を記念し、「式年神幸祭記念 香取神宮展」を開催することといたしました。本展示では、式年神幸祭とは何かという視点から、毎年開催される神幸祭や、香取神宮と関連する周辺地域にも目を向け、その歴史について紹介するとともに、今年度新たに香取神宮から当館に寄託された千葉県指定有形文化財の宝物を展示します。香取神宮式年神幸祭とともに、本展示をお楽しみいただければ幸いです。

最後に、本展示の開催にあたり、香取神宮をはじめ、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

令和八年三月

千葉県立中央博物館 館長 四柳 隆

目次

ごあいさつ	1
凡例	2
第一章 香取神宮のはじまり	3
第二章 式年神幸祭	5
一 神幸祭と式年神幸祭	6
二 式年神幸祭の歴史	7
第三章 香取と鹿島	9
一 香取の海をはさんで	10
二 それぞれの神幸祭	13
解説	16
主な参考文献	21
出品目録	23

凡例

- ・本図録は、令和七年度トピックス展「式年神幸祭記念 香取神宮展」（令和八年三月十四日から五月三十一日まで開催）における展示図録として作成したものである。
- ・本図録は、展示資料の写真の一部を掲載したものである。ただし、解説文は出品した全資料を掲載している。写真掲載しない史料については、解説文に★を記した。
- ・本図録に掲載した写真のうち、千葉県立房総のむら所蔵資料は、所蔵者から借用したフィルムを当館でデジタル化したものである。そのほかは、当館研究員が撮影した。
- ・本図録の作成は、中川由莉・小出麻友美・小川宏和・園部華与・黒田篤史が行った。
- ・本展示は、中川由莉・小出麻友美・小川宏和・園部華与・菊川照英・林紀男が担当した。

表紙写真

官幣大社香取神宮

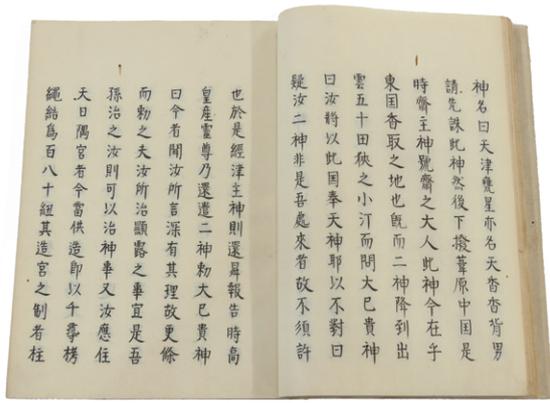
神幸軍神祭御船遊之図（部分）

（千葉県立中央博物館所蔵）

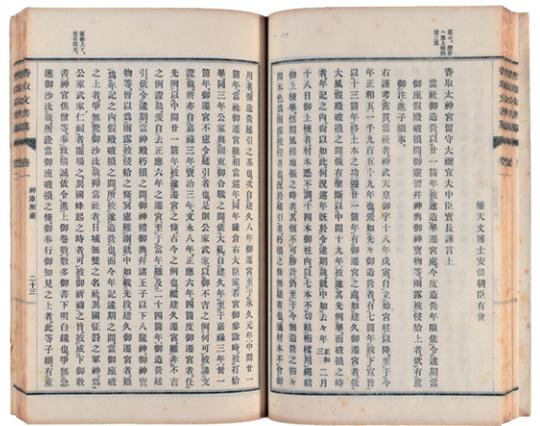
第一章 香取神宮のはじまり

香取神宮は、ふつぬしのおおかみ経津主大神を祭神とし、じんむ神武天皇十八年創建との歴史があります。りつりょう律令国家から、えんぎしき延喜式に載るしきないしや式内社そしてみやうじんたいむ明神大社という高い社格を認められていました。それは、「神宮」という名称にも表れており、「神宮」と呼ばれる神社は、かつては伊勢神宮と鹿島神宮、そして香取神宮の三社のみでした。

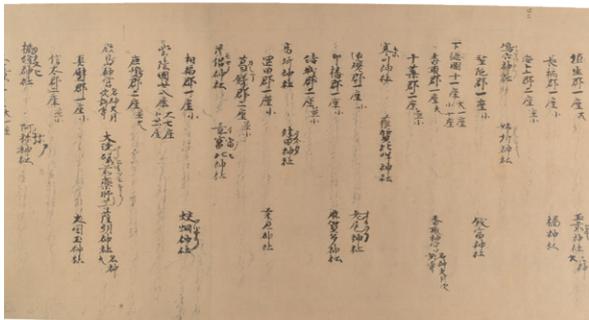
実際に、国家から経済的な基盤を保証されており、香取郡をしんぐん神郡（神宮の領地）として与えられていたこと、そして具体的なかんばん神戸（神宮のためのみんこ民戸）の名前も確かめられています。香取神宮が、国家と強くつながり、また周辺地域に支えられていたことがうかがえます。



2 日本書紀 卷第二



1-1 正和五年二月日「大禰宜実長訴状写」
(香取文書纂 卷一)



4 複製 延喜式 (九条家本) 卷第九



3 古事記 上



6 神田台遺跡 墨書土器



5 千葉県指定有形文化財 吉原三王遺跡 墨書土器

第二章 式年神幸祭

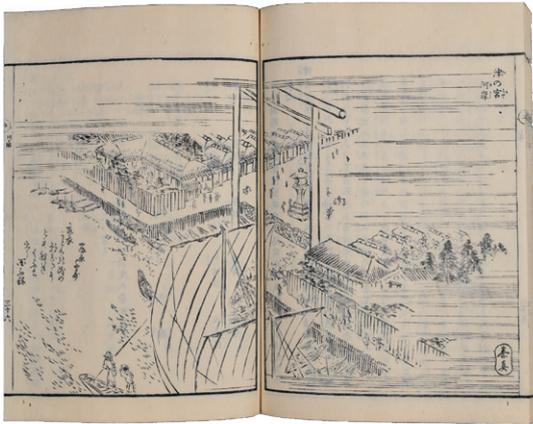
式年神幸祭とは、午年という定められた年に行うという「式年」、神が御幸する祭礼という意味の「神幸祭」を組み合わせた名称です。

現在行われている祭礼は、明治時代に再興されたもので、その際に、十二年に一度行う定年の祭礼となりました。香取神宮の祭神が神輿に乗って巡幸し、御座船に乗って利根川を進む流れは、「神幸祭絵巻」や古文書、江戸時代の地誌などの資料を参考にしたとみられます。

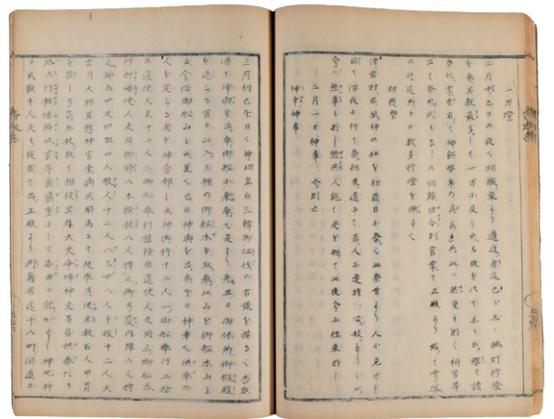
一 神幸祭と式年神幸祭

現在、十二年に一度、午年に行われる式年神幸祭は、かつては毎年行われていました。江戸時代には、すでに祭礼は行われていませんでしたが、江戸時代末期から明治時代の地誌では「神幸神事」「軍神祭」などと呼ばれ、「三月の最初の巳と午の日に行われていたもので、神功皇后の三韓征伐になぞらえ、香取浦に神輿を出して船に乗せる神事」だと紹介しています。

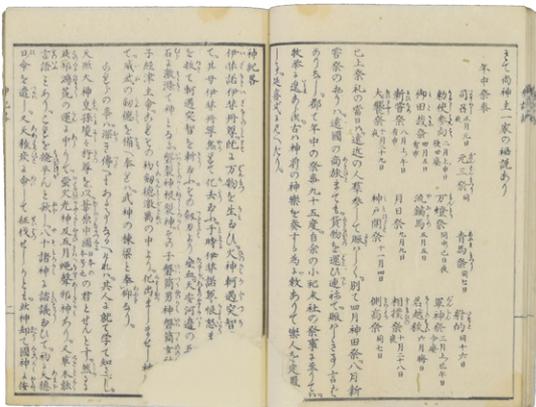
そして、今に残る神幸祭絵巻は、香取神宮から津宮まで続く御神輿を中心とする行列を描き、かつての祭礼の様子をよく伝えています。



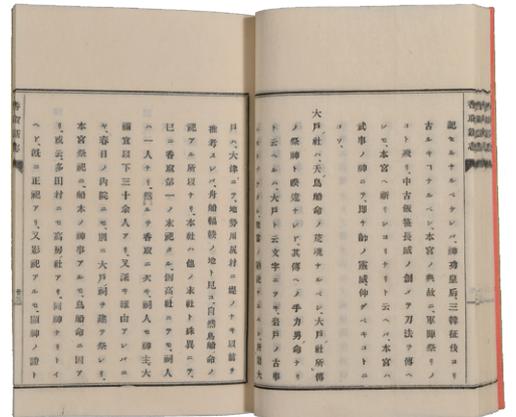
8 利根川図志 巻五



7 香取志 上巻



10 香取参詣記



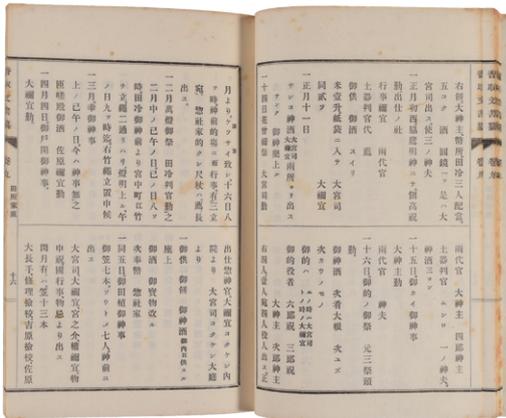
9 香取新誌

二 式年神幸祭の歴史

式年神幸祭が始まった時期は、明らかではありません。和銅六年（七一三）に編さんが命じられた『常陸国風土記』に、同じく船を用いる鹿島神宮の御船祭につながる祭礼があることから、八世紀には香取神宮でも式年神幸祭に近い祭礼が行われていたと考えられます。また、香取神宮の中世の記録からは、船を用いた祭礼が毎年三月に行われていたことが読み取れます。

神幸祭は、江戸時代には行われなくなりませんが、明治維新後に再興され、明治八年（一八七五）に現在の形となりました。

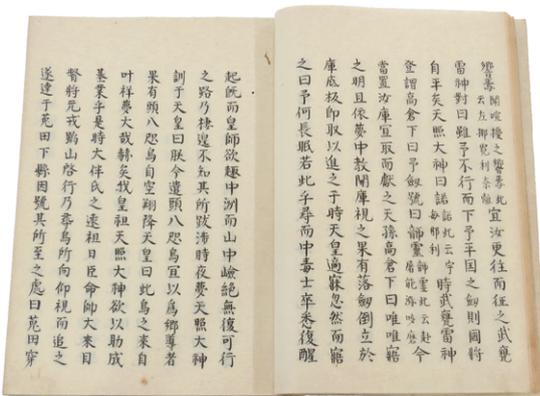
現在の十二年に一度の齋行は、かつて二十年ごとに社殿の新造を行っていた式年遷宮とのかかわりが考えられています。式年遷宮は中世後期以降形骸化し、式年の考え方も揺らいでいたことがうかがえます。式年神幸祭は明治十五年（一八八二）に午年に行うことと定められますが、その背景ははっきりとしていません。



13 年月欠「御祭礼之次第」(香取文書纂 卷九)



12 常陸国風土記



16 日本書紀 卷第三



15 古事記 中



18 香取神宮神幸軍神祭図



19 官幣大社香取神宮 神幸軍神祭御船遊之図



② 発興を待つ供奉者たち



① 香取神宮本殿



④ 多田の獅子舞 (香取市指定無形民俗文化財)



③ 津宮にて供奉船に乗る風景か
20-1 官幣大社 香取神宮神幸軍神祭 記念絵葉書



③ 神輿津宮河岸御初鞆



①② 神輿供奉船の賑わい
20-2 下総官幣大社香取神宮 神幸軍神祭 (四月十五日)

第三章 香取と鹿島

経津主大神と武甕槌大神の二神は、『日本書紀』で、葦原中国を平定する神として登場しました。この神話から、ともに武神と位置づけられています。平安時代前期には、香取神宮の祭神が経津主大神、鹿島神宮の祭神が武甕槌大神であることが史料に現れてきます。

また、両宮は、かつて存在した霞ヶ浦・北浦・印旛沼・手賀沼などがひとつづきとなった内海「香取の海」をはさんで立地しています。古代・中世には、周辺に多くの津が設けられ、内海を用いた水上交通の盛んな地でした。

そして、両宮は、利根川でそれぞれの祭神に迎えられるという特徴的な祭礼を行います。それが、十二年に一度、午年に行われる香取神宮の式年神幸祭、鹿島神宮の式年大祭御船祭です。祭神・立地・祭礼と、多くの共通点を持つ香取神宮と鹿島神宮。その意味を考えてみます。

一 香取の海をはさんで

香取神宮と鹿島神宮は、内海「香取の海」をはさみ、南北に立地しています。中世には、香取神宮の支配下にあった海民の住む津が、香取の海沿岸に広がっていました。その一つである「神崎の津」には、神崎神社（神崎町）がありました。神崎神社は、天鳥船命を祭神の一柱とし、交通の神ともされてきました。

さらにさかのぼると、古代東海道の駅は内海沿岸に設けられていました。八世紀末には、内海から外洋への水運ルートを利用して東国への軍事物資運搬も行われました。

香取神宮の祭神は、東国香取の地を治める神であり、「楯取の神」とも表される船とかかわり深い神でした。また、その立地も東国への水陸交通の要衝にあり、まさに、東国やそこへ通じる水運を治める要として位置づけられていたと考えられます。



23 千葉県指定有形文化財 神崎宮絵図写 (神崎神社文書)



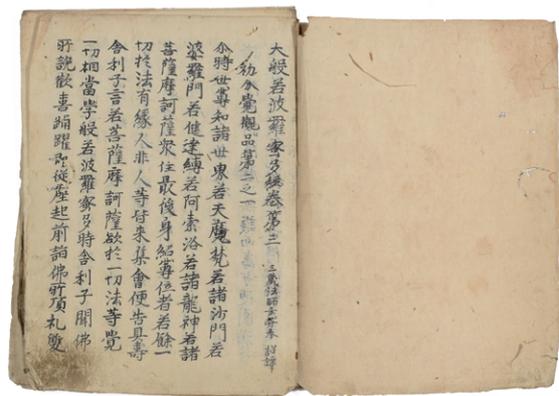
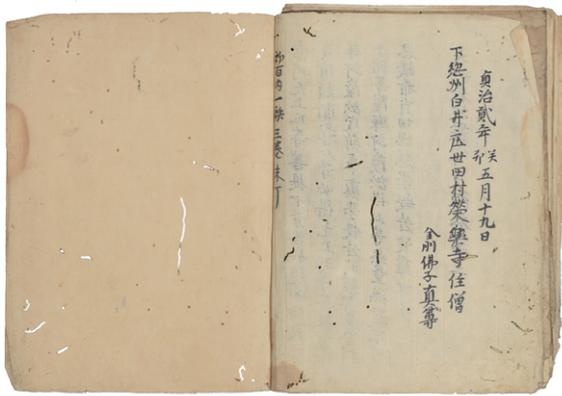
21 卜部家本 古語拾遺 (影印本)



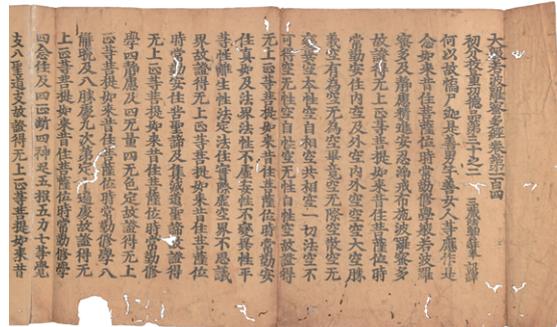
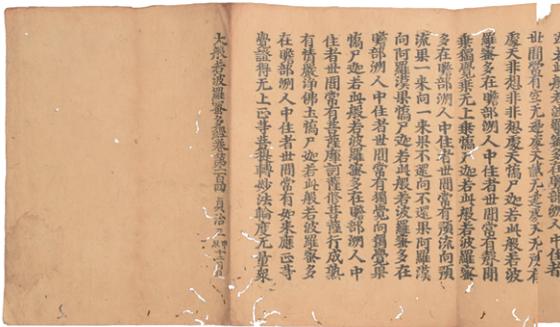
24 千葉県指定有形文化財 神宮寺文書 (大般若波羅蜜多經・経箱入)



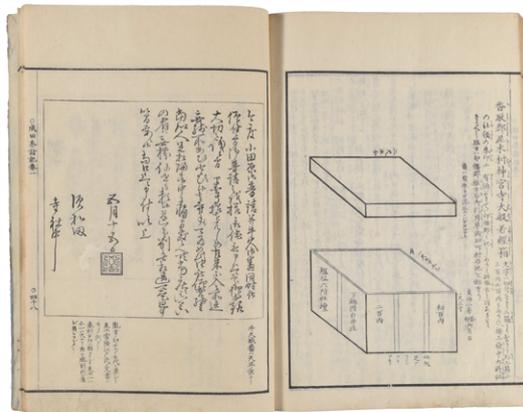
24-1 千葉県指定有形文化財 大般若波羅蜜多經 卷第五百八十八 (神宮寺文書)



24-2 千葉県指定有形文化財 大般若波羅蜜多經 卷第三 (神宮寺文書)



24-3 千葉県指定有形文化財 大般若波羅蜜多經 卷第一百四 (神宮寺文書)



25 成田名所図会 (成田参詣記) 一

古代・中世の香取の海と水陸交通



太平洋



- 凡例
- 神宮・神社
 - 国府
 - 海夫注文の津
 - 駅
 - ⋯ 奈良時代の東海道
 - 延喜式記載の東海道



地理院タイル（傾斜量図、デジタル標高地形図、アナグリフ）を使用して作成



28-1 官幣大社香取神宮鹿島神宮参拝記念
絵葉書



27 鹿嶋志 上巻



28-2 日本水郷めぐり・鹿島神宮 御船祭



②



①



④



③

29-1 香取神宮式年神幸祭



29-2 香取神宮式年神幸祭



②



①



③

29-3 香取神宮式年神幸祭



30 鹿島神宮式年大祭御船祭

解説

1-1-1

正和五年二月日「大禰宜実長訴状写」

(香取文書纂 卷一)

明治四十一年(一九〇八)

(原資料：正和五年(一二三二六))

千葉県立中央博物館

香取神宮の大禰宜であった大中臣実長が、社殿の造営を要求して鎌倉幕府に提出した訴状の控えです。神宮の創建が神武天皇十八年にさかのぼることを強調し、迅速な対応を求めています。現在まで伝わる創建の社伝が、この時期すでに成立していたことをうかがわせる史料です。

1-1-2

千葉県指定有形文化財 正和五年二月日「大禰宜実長訴状写」(本所古文書) *

正和五年(一二三二六)

香取神宮

1-1-1の原資料です。

2 日本書紀 卷第二

江戸時代

千葉県立中央博物館 大利根分館

祭神の経津主大神は、葦原中国の平定

者の「経津主神」として登場し、「東国香取の地」にいます。香取の地を治める神を祭神とすることが神話からもわかります。

3 古事記 上

寛永二十一年(一六四四)

国立国会図書館デジタルコレクション

祭神・経津主大神が、葦原中国の平定者の建御雷之男神、別名、建布都神・豊布都神として登場します。別名の「布都」は経津主大神の「経津」と音通する名前です。

4 複製 延喜式(九条家本) 卷第九

大正十四年(一九二五)

千葉県立中央博物館

(原資料：「国宝」東京国立博物館) 神名帳(神祇官所管の神名の登載帳)の香取郡の項には、香取神宮一座のみが載せられ、明神大社であることも記します。明神大社という国家の大事に祈願を行う社とされ、古代から高い社格でした。

5 千葉県指定有形文化財 吉原三王遺跡 墨書土器

平安時代前期(九世紀中頃)

千葉県教育委員会

吉原三王遺跡(香取市佐原)の竪穴住居跡から出土しました。体部の墨書

「香取郡大坏郷」は、天平勝宝二年(七五〇)・三年の古文書にある「香取郡神戸大槻郷」との記述から、香取郡内にあった香取神宮の経済的基盤となる神戸だと考えられます。

【墨書】「香取郡大坏郷中臣人成女之

替承

6 神田台遺跡 墨書土器

平安時代前期(九世紀前半)

千葉県立房総のむら

神田台遺跡(香取市佐原)の竪穴住居跡から出土した土師器杯です。墨書「神宮」は、地理的にも香取神宮を指すと考えられます。外面には赤彩が残るところから特別な土器とみられ、集落内での神宮への祈りに使用されたと推定されています。

【墨書】神宮

7 香取志 上巻

天保四年(一八三三)

千葉県立中央博物館

香取神宮社家の小林重規が著した地誌です。執筆時に神幸祭は行われていませんでしたが、室町時代の永享九年(一二三七)の記録により、かつての祭礼行列を「神幸神事」として紹介しています。

8 利根川図志 卷五

安政二年(一八五五)

千葉県立中央博物館

赤松宗旦が著した利根川流域の地誌です。「香取神宮の一の鳥居は水中に建っている」と、津宮浜鳥居を紹介しています。かつては、この津宮河岸に上陸して、三社参詣(鹿島神宮・香取神宮・息栖神社)が行われていました。

9 香取新誌

明治十年(一八七七)

千葉県立中央博物館 大利根分館

佐原出身の国学者・清宮清堅が香取神宮の講話をまとめたものです。明治八年(一八七五)に神幸祭が年中行事として再興された後に書かれたもので、神幸祭について「軍陣祭り」の呼称を用いています。

10 香取参詣記

文政十一年(一八二八)

千葉県立関宿城博物館

江戸時代の儒学者・久保木清淵が香取神宮の参詣者向けに著した書。式年神幸祭は、年中祭事の項に「軍神祭(三月上の巳午の日)とされ、齋行日が伝承されつつも、この当時、祭礼自体は途絶えていたことがうかがえます。

11 神幸祭絵巻（多田家本）*

江戸時代 香取神宮

かつての神幸祭のようすを描いた絵巻。香取神宮の正神殿から津宮へつづく行列が描かれていましたが、冒頭が欠けています。一方で、役職名が書き込まれており、神幸祭の行列の具体的な姿をよく伝えていきます。

12 常陸国風土記

天保十年（一八三九）

千葉県立中央博物館

天智天皇の時代、鹿島神宮では、倭武天皇の時代に長さ二丈余の舟三隻を造り納めたことにちなみ、毎年七月に舟を造って津宮に奉納する習いとなつたとあります。祭礼に船三隻が登場することは、鹿島神宮の御船祭と香取神宮の式年神幸祭に共通しています。

13 年月欠「御祭礼之次第」

（香取文書纂 巻九）

明治四十一年（一九〇八）

千葉県立中央博物館

三月の神幸祭の項目には、「上の巳午の日、今は神事これ無し。」と記されています。天和元年（一六八一）頃の記録と考えられており、神幸祭は、江戸時代には毎年の祭祀として行われていませんでした。

14 伊藤泰歳「祭典旧儀下調書」*

明治十七年（一八八四）か

香取神宮

香取神宮神職の伊藤泰歳が、神幸祭が再興された頃の祭礼をまとめたもの。神幸祭は、「神幸軍神祭」と呼ばれ、明治維新後、有志により再興が計画され、明治八年（一八七五）に新式で行い、九・十・十二・十五年と続けた後、午年に大祭を行うことになったと記します。

15 古事記 中

寛永二十一年（一六四四）

国立国会図書館デジタルコレクション

建御雷之男神は、神武東征の際、葦原中国を平定した刀を献上します。刀「瓊布都神」は、天皇一行を正気に戻す大きな役割を果たしました。別名「布都御魂」といい、経津主大神に通じるものです。

16 日本書紀 巻第三

江戸時代

千葉県立中央博物館 大利根分館

『古事記』と同様の話が、『日本書紀』にも登場しますが、劔の名は、「節霊」と記されています。記紀いずれも、経津主神と建御雷神の二神が葦原中国の平定者としており、二神が武神とされること

は、この神話によると考えられます。

17 千葉県庁形文化財 弘安九年六月日「国

宣写」（本所古文書）*

弘安九年（二二八六）

香取神宮

亀山上皇の意を受けて発給された文書の写しで、式年遷宮を滞りなく遂行するよう命じています。通常は「二十一年が経過するまでの間に社殿を完成させ、遷宮を遂げる」となっていますが、この度は「弘安三年に宣旨が下されて以来、造営されたのは嬬殿（仮殿）のみ」とされ、社殿の造営が遅れがちになっている様子がうかがえます。

18 香取神宮神幸軍神祭図

明治時代 千葉県立中央博物館

明治時代に四月十四日を祭礼日として再興した神幸軍神祭を描いています。御神輿を先導する行列は、水上渡御の出発地の津宮浜鳥居に到着し、利根川では、御座船が御神輿を待っています。

19 官幣大社香取神宮 神幸軍神祭御

船遊之図

明治時代 千葉県立中央博物館

三代目歌川広重が描いた明治時代の神幸軍神祭です。御神輿を中心とした行列が、津宮浜鳥居へむかう様子が画

面右に、御神輿を乗せた御座船が多く、の供奉船とともに利根川へ漕ぎ出す場面を「御船遊」として大きく描いています。

20 1

官幣大社 香取神宮神幸軍神祭 記

念絵葉書

明治時代末期〜大正時代初期

千葉県立中央博物館蔵田「レクシヨ」

明治時代の式年神幸祭を写した記念絵はがきです。戦前までは「神幸軍神祭」と呼ばれていました。

①香取神宮本殿

②発輿を待つ供奉者たち

③津宮にて供奉船に乗る風景か

④多田の獅子舞（香取市指定無形民俗文化財）

甲冑武者（③）は、祭神・経津主大神の東国平定を模したという祭礼の由来を伝えています。

20 1 2

下総官幣大社香取神宮 神幸軍神祭

（四月十五日）

明治時代末期〜大正時代初期

千葉県立中央博物館蔵田「レクシヨ」

①神輿供奉船の賑わい

②利根川の川面を埋め尽くす御神輿

の供奉船には、装束に身をつつん

だ参列者や多くの観光客が乗船しています。

③神輿津宮川岸御発輦

香取の神を遷した御神輿は、津宮にて御座船へと移り、水上渡御へ出発します。

21 卜部家本 古語拾遺（影印本）

昭和十七年（一九四二）
千葉県立中央博物館

古代の朝廷で祭祀を担った忌部氏の家伝で、大同二年（八〇七）に成立しました。葦原中国平定神話部分の割書に、経津主神は「下総国香取神」、武甕槌神は「常陸国鹿嶋神」とあり、九世紀には、香取・鹿島の祭神が定まっていた。

22 複製 海夫注文*

現代（原資料：応安七年（一三七四））
千葉県立中央博物館

（原資料：「重要文化財」個人）
香取神宮の大宮司によって支配された「津（湊）」を書き上げたリストで、ここに見える「つのみやの津」は、現在、津宮浜鳥居が立つ地を指すと考えられます。八通が現存するリストには下総だけでなく常陸国の地名も記され、神宮の支配が「香取の海」の全域に及んでいたことが明らかになりました。

23 千葉県指定有形文化財 神崎宮絵図写

（神崎神社文書）
平治元年（一一五九）
神崎神社（千葉県立中央博物館寄託）

「宮曼荼羅」と呼ばれるものの一種で、神社の神域や社殿の配置を描き、その由来などを記しています。神崎神社は摂関家領だった神崎荘に所在したことから摂関家との結びつきが強く、神主職も摂関家により任命されていました。一方で、鎌倉時代を通じて式年遷宮の費用をたびたび負担しており、香取神宮とも深いかわりがあったと推測されます。

24 千葉県指定有形文化財 神宮寺文書

（大般若波羅密多経・経箱入）
平安時代～南北朝時代
神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）

神崎神社の別当寺（神仏分離以前の神社に付属して置かれた寺院）だった神宮寺に伝来しました。神宮寺の大般若経は、最初、白井庄（佐倉市・八街市）六所宮に奉納され、大永八年（一二二八）頃、神宮寺に奉納されました。一部に平安時代後期の写本を含んでおり、当時の写経僧の活動がわかる資料です。

24-1 千葉県指定有形文化財 大般若波羅密

多経 卷第五百八十八（神宮寺文書）
平安時代～鎌倉時代
神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）

文字や紙の質、長さなどから、平安時代後期から鎌倉時代に書写されたと思われる、巻首から巻末までが残る完存品です。元は卷子装でしたが、途中で改装され折本装になっています。奥書には、神宮寺への奉納者「神崎平之義」の名がみえます。

24-2 千葉県指定有形文化財 大般若波羅密

多経 卷第三（神宮寺文書）
貞治二年（一二六三）
神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）

奥書にあるように、貞治二年に白井庄世田村の栄楽寺（現在は廃寺）の真尊によって書写された完存品です。

24-3 千葉県指定有形文化財 大般若波羅密

多経 卷第一百四（神宮寺文書）
南北朝時代
神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）

神宮寺の大般若経は、写本と版本が混ざって構成されています。折本装の春日版と思われる。

25 成田名所図会（成田参詣記）

安政五年（一八五八）

千葉県立中央博物館

神宮寺に伝わる大般若波羅密多経（出品番号24）の経箱を紹介します。経箱の銘文から、貞治二年（一二六三）六月に白井庄六所宮に奉納されたもので、経典の奥書の年代とも一致します。また、当時は三箱が残されるもの、すでに脚が欠けていたことも伝わっています。

26 絵はがき

- ・官幣大社香取神宮鹿島神宮参拝記念絵葉書
- ・官幣大社香取神宮参拝記念絵葉書
- ・官幣大社香取神宮 津の宮
- ・下総官幣大社 香取神宮 浜ノ大鳥居
- ・香取神宮神幸祭
- ・下総官幣大社香取神宮神幸軍神祭
- ・神輿利根川にて鹿島神宮小御門神社の御迎祭式
- 大正・昭和時代

千葉県立中央博物館蔵田コレクション

①津宮浜鳥居の風景

現在は、陸上にある香取神宮の大鳥居（浜鳥居）ですが、かつては利根川の中に立っていました。川には木造船や船で働く人々が写っています。

②香取神宮旧参道

かつての表参道の光景です。参拝記

念の絵葉書を宣伝する看板や絵葉書を製作した店（松林堂）も見られます。

③昭和終わりごろの式年神幸祭の様子多くの観衆が見つめるなか、御神輿が御座船へと乗せられます。

④鹿島神宮小御門神社御迎祭

御神輿を乗せて津宮を出発した御座船は、利根川上の牛ヶ鼻で鹿島神宮、下船する佐原河岸付近で小御門神社、各社による御迎祭が行われます。

27 鹿嶋志 上巻

文政六年（一八二三）

千葉県立中央博物館

二日間におよぶ祭礼を「御軍祭」「御船祭」として紹介しています。御船祭の歴史として、舟三隻を納めた話（『常陸国風土記』（出品番号12））を引用し、その三隻の舟を香取の海へ流すと香取神宮末社の津宮へ自ら到着したとの伝記も紹介します。

挿図は、現在、一日目に行われている提灯まちの様子です。

28-1 官幣大社香取神宮鹿島神宮参拝記念 絵葉書

大正時代〜昭和時代初期

千葉県立中央博物館蔵田コレクション

鹿島神宮には、東西南北それぞれに

「一之鳥居」があります。このうち、西の一之鳥居が立つ鹿島市大船津は、御船祭の水上演習の出発地で、かつては鹿島神宮参拝の玄関口でもありました。

28-2 日本水郷めぐり・鹿島神宮御船祭

昭和時代後期

千葉県立中央博物館蔵田コレクション

昭和後期の鹿島神宮式年大祭御船祭です。境内から大船津へ向かう行列や、香取市加藤洲の様子です。加藤洲では、香取神宮による御迎祭が行われます。

29-1 香取神宮式年神幸祭

（撮影：越川宥氏）

平成時代

①御神輿が輿丁に担がれて出発します。

②おらんだ楽隊が、佐原の町並みと西から東へ進んでいます。小野川沿いの中村屋商店前を通り、忠敬橋へさしかかるところです。

③利根川に浮かぶ御神輿が乗る御座船です。木造船であったのは、平成二十六年よりも前とのこと。

④御座船の先には、鶴首が飾られます。大空を飛び回り、巧みに水に潜るという想像上の水鳥です。

29-2 香取神宮式年神幸祭

平成二十六年（二〇一四）

千葉県立中央博物館

前回の式年神幸祭のようすです。利根川には、御座船とともに、御神輿に付き従う人々が乗る供奉船も停まり、出発を待っています。

29-3 香取神宮式年神幸祭

平成二十六年（二〇一四）

香取市教育委員会

①御神輿を乗せた御座船が利根川を進んでいきます。

②鹿島神宮の祭神を乗せた船も利根川を進みます。

③式年神幸祭では、香取の神が鹿島の神に出迎えられます。この後、二隻は、牛ヶ鼻（香取市）で接舷し、御迎祭が行われます。

30 鹿島神宮式年大祭御船祭

平成二十六年（二〇一四）

鹿島神宮

鹿島神宮でも、十二年ごとの午年の九月、式年大祭御船祭が行われます。祭礼では、船の先に竜頭を飾った御座船が用いられ、式年神幸祭の鶴首と対になっています。

31 複製 海獣葡萄鏡*

現代（原資料：唐（七世紀））

千葉県立中央博物館

（原資料：「国宝」香取神宮）
径：二九・五センチ

鏡背面に、海獣と葡萄唐草文を配置した唐製鏡です。同じ原型による鏡が正倉院にあることから、香取神宮に天皇やその周辺に近い人物がいたことが推測されます。

32 千葉県指定有形文化財 海獣葡萄鏡*

天文二十二年（一五五三）

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

径：一三・九センチ

鏡背面の文様は、国宝の鏡と同じ組み合わせです。鏡面の墨書から、天文二十二年（一五五三）に林越前により奉納されたことがわかります。

【鏡面墨書】

林

香取大明神

越前

天文廿二年癸丑四月吉日

33 千葉県指定有形文化財 瑞花双鳳五花鏡*

鎌倉時代か

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

径：一一・七センチ

五弁の花びらの形をかたどった五花鏡

で、鈕ちゆうの上下にふり返る鳳凰を、空間を埋めるように瑞花ずいかを配置しています。

34 千葉県指定有形文化財 梅樹双雀鏡*

延文五年（一三六〇）

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

径：八・〇センチ

鏡背面に、下向きの亀の鈕ちゆう、右下の州浜すはまから梅がのび、州浜の左に向き合う二羽の雀を表す和鏡です。また、鏡面の墨書や二つの穴から、神前かけられた御正体みしょうたいであったとみられます。

【鏡面墨書】

敬白

御正躰一面

右志者為平

氏女心中所願成就

圓滿也

延文五季三月七日

平氏女敬白

35 千葉県指定有形文化財 菊枝双雀長方形鏡*

南北朝時代か

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

縦：七・七センチ

横：五・六センチ

鈕ちゆうの穴が、上下にあけられています。中央にある鈕から上下に菊の枝がのび、鈕の右に二羽の雀が向かいあって配置されています。

36 千葉県指定有形文化財 菊花双雀鏡*

長祿二年（一四五八）

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

径：一一・三センチ

鈕ちゆうは上向きの亀で、その周りに七輪の菊の花を一組として五組を配置し、鈕の上には二羽の雀が向かいあっています。鏡面の墨書から、長祿二年（一四五八）に、御正体みしょうたいとして奉納されたものです。

【鏡面墨書】

敬白

奉懸御正躰一枚

右者為所願成就也

長祿二年十二月吉日

敬白

37 千葉県指定有形文化財 瑞花双鳳八稜鏡*

室町時代

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

径：一二・二センチ

中央に突起がある八つの花弁を持つ、八稜形はちりょうがたの鏡です。鈕ちゆうの上に尾長鳥風おながどりかぜとなった二羽の鳳凰が飛び、その周りに瑞花ずいかを配置します。

径：三六・七センチ

総長：四九・一センチ

上部に宝珠形ほうじゆがたの鈕を置き、全面を魚な子地こじとします。鹿島神宮には、前年の元祿七年銘で、同じく江戸本船町ほんふねなうら（東京都中央区日本橋）の森田姓の人物による神号鏡が伝わります。両宮に共に奉納したことが注目されます。

38 千葉県指定有形文化財 神号鏡*

元祿八年（一六九五）

香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

主な参考文献

- 茨城県立歴史館『鹿島と香取』（令和4年春の特別展）2023
- 川尻秋生「香取の海」の水上交通『古代東国史の基礎的研究』塙書房、2003
- 笹生衛「神輿と祭礼の誕生」『まつりと神々の古代』吉川弘文館、2023
- 鈴木哲雄「香取神宮神幸祭絵巻（権検非違使家本）について」『千葉県史研究』15、2007
- 『香取文書調査報告書 香取文書の文化財としての保存に向けた基礎的研究』
（2020年度～2023年度 科研費基盤研究（C）（一般）、研究代表者：鈴木哲雄）、2024
- 鈴木哲雄『物流の東国史 津々浦々の長者と富』吉川弘文館、2025
- 武部健一（木下良・監修）『完全踏査 古代の道（新装版） 畿内・東海道・東山道・北陸道』吉川弘文館、2023
- 千葉県佐原市教育委員会『香取神宮史料調査報告書—建造物・美術工芸品・考古資料編一』1999
- 中村太一『日本古代の都城と交通』八木書店、2020
- 奈良国立博物館『第70回「正倉院展」目録』2018
- 奈良国立博物館『超国宝一祈りのかがやき』（奈良国立博物館開館130年記念特別展）2025
- 財団法人千葉県文化財センター『佐原市神田台遺跡』千葉県教育委員会、1978
- 財団法人千葉県史料研究財団『千葉県の歴史 通史編 中世』千葉県、2007
- 千葉県立美術館『香取神宮一神に奉げた美』（千葉県文化財保護条例制定60周年記念 平成27年度特別展）2015
- 千葉県立中央博物館『香取の海—その歴史と文化—』（平成5年度特別展図録）1993
- 千葉県立大利根博物館『企画展「東総の大般若経」展示図録』1999

第3章 香取と鹿島

1 香取の海をはさんで

21	写真 卜部家本 古語拾遺（影印本）	昭和17年（1942）	千葉県立中央博物館 （原資料：●天理大学附属天理図書館）
22	複製 海夫注文	現代 （原資料： 応安7年（1374））	千葉県立中央博物館 （原資料：●個人）
23	○ 神崎宮絵図写（神崎神社文書）	平治元年（1159）	神崎神社（千葉県立中央博物館寄託）
24	○ 写真 神宮寺文書（大般若波羅蜜多經・経箱入）	平安時代 ～南北朝時代	神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）
24-1	○ 大般若波羅蜜多經 卷第五百八十八	平安時代 ～鎌倉時代	神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）
24-2	○ 大般若波羅蜜多經 卷第三	貞治2年（1363）	神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）
24-3	○ 大般若波羅蜜多經 卷第一百四	南北朝時代	神宮寺（千葉県立中央博物館寄託）
25	成田名所図会（成田参詣記） 一	安政5年（1858）	千葉県立中央博物館

2 それぞれの神幸祭

26	絵はがき ・官幣大社香取神宮鹿島神宮参拝記念 絵葉書 ・官幣大社香取神宮参拝記念 絵葉書 ・官幣大社香取神宮 津の宮 ・下総官幣大社 香取神宮 浜ノ大鳥居 ・香取神宮神幸祭 ・下総官幣大社香取神宮神幸軍神祭神輿 利根川にて鹿島神宮小御門神社の御迎祭式	大正・昭和時代	千葉県立中央博物館（菱田コレクション）
27	鹿嶋志 上巻	文政6年（1823）	千葉県立中央博物館
28-1	官幣大社香取神宮鹿島神宮参拝記念 絵葉書	大正時代～ 昭和時代初期	千葉県立中央博物館（菱田コレクション）
28-2	日本水郷めぐり・鹿島神宮 御船祭	昭和時代後期	千葉県立中央博物館（菱田コレクション）
29-1	写真 香取神宮式年神幸祭 （撮影：越川宥氏）	平成時代	
29-2	写真 香取神宮式年神幸祭	平成26年（2014）	千葉県立中央博物館
29-3	写真 香取神宮式年神幸祭	平成26年（2014）	香取市教育委員会
30	写真 鹿島神宮式年大祭御船祭	平成26年（2014）	鹿島神宮

4 香取神宮の神宝

31	複製 海獣葡萄鏡	現代 （原資料： 唐（7世紀））	千葉県立中央博物館 （原資料：◎香取神宮）
32	○ 海獣葡萄鏡	天文22年（1553）	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）
33	○ 瑞花双鳳五花鏡	鎌倉時代か	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）
34	○ 梅樹双雀鏡	延文5年（1360）	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）
35	○ 菊枝双雀長方形鏡	南北朝時代か	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）
36	○ 菊花双雀鏡	長禄2年（1458）	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）
37	○ 瑞花双鳳八稜鏡	室町時代	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）
38	○ 神号鏡	元禄8年（1695）	香取神宮（千葉県立中央博物館寄託）

令和7年度トピックス展 「式年神幸祭記念 香取神宮展」

出品目録

令和8年3月14日（土）～5月31日（日）

千葉県立中央博物館

◎：国宝，●：重要文化財，○：千葉県指定有形文化財

番号	指定	名称	時代	所蔵
第1章 香取神宮のはじまり				
1-1		正和五年二月日「大禰宜実長訴状写」 (香取文書纂 巻一)	明治41年(1908) (原資料： 正和5年(1316))	千葉県立中央博物館
1-2	○	写真 正和五年二月日「大禰宜実長訴状写」 (本所古文書)	正和5年(1316)	香取神宮
2	写真	日本書紀 巻第二	江戸時代	千葉県立中央博物館 大利根分館
3	写真	古事記 上	寛永21年(1644)	国立国会図書館デジタルコレクション
4	複製	延喜式(九条家本) 巻第九	大正14年(1925)	千葉県立中央博物館 (原資料：◎東京国立博物館)
5	○	吉原三王遺跡 墨書土器	平安時代前期	千葉県教育委員会
6		神田台遺跡 墨書土器	平安時代前期	千葉県立房総のむら
第2章 式年神幸祭				
1 神幸祭と式年神幸祭				
7		香取志 上巻	天保4年(1833)	千葉県立中央博物館
8		利根川図志 巻五	安政2年(1855)	千葉県立中央博物館
9		香取新誌	明治10年(1877)	千葉県立中央博物館 大利根分館
10		香取参詣記	文政11年(1828)	千葉県立関宿城博物館
11		神幸祭絵巻(多田家本)	江戸時代	香取神宮
2 式年神幸祭の歴史				
12	写真	常陸国風土記	天保10年(1839)	千葉県立中央博物館
13	写真	年月欠「御祭礼之次第」 (香取文書纂 巻九)	明治41年(1908)	千葉県立中央博物館
14		伊藤泰歳「祭典旧儀下調書」	明治17年(1884) か	香取神宮
15	写真	古事記 中	寛永21年(1644)	国立国会図書館デジタルコレクション
16	写真	日本書紀 巻第三	江戸時代	千葉県立中央博物館 大利根分館
17	○	弘安九年六月日「国宣写」(本所古文書)	弘安9年(1286)	香取神宮
18		香取神宮神幸軍神祭図	明治時代	千葉県立中央博物館
19		官幣大社香取神宮 神幸軍神祭御船遊之図	明治時代	千葉県立中央博物館
20-1		官幣大社 香取神宮神幸軍神祭 記念絵葉書	明治時代末期 ～大正時代初期	千葉県立中央博物館(菱田コレクション)
20-2		下総官幣大社香取神宮 神幸軍神祭(四月十五日)	明治時代末期 ～大正時代初期	千葉県立中央博物館(菱田コレクション)

本展示の開催および図録の作成にあたり、左記の機関ならびに多くの皆様から御教示、御協力を賜りました。ここに記して改めてお礼申し上げます。

(敬称略・五十音順)

◆機関

鹿島神宮

香取市教育委員会

香取神宮

神崎神社

神宮寺

千葉県教育委員会

千葉県立関宿城博物館

千葉県立房総のむら

◆個人

伊澤直生

岡澤佑介

神崎克雄

越川雅子

曾川昌大

高林鮎太

新鞍知規

八木正道

雪松直

令和七年度トピックス展

「式年神幸祭記念 香取神宮展」

発行 千葉県立中央博物館

〒二六〇―八六八二

千葉県千葉市中央区青葉町九五五―二

発行日 令和八年三月十四日

千葉県立中央博物館